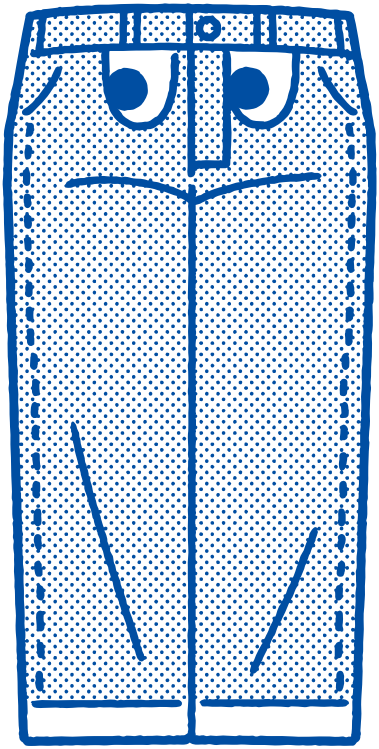
いいジーパン穿こうぜ



JEANS QUALITY BOOK

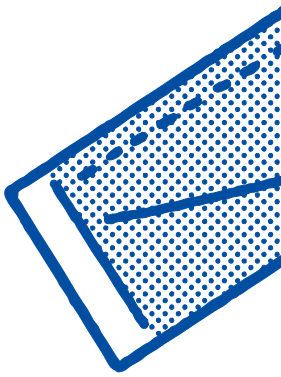
EDWIN®

穿きこんで、似合わせて。

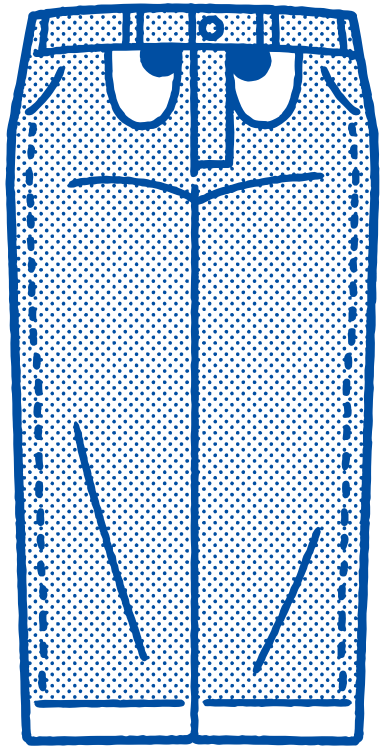
もともとジーパンは作業着。
丈夫がウリのLONG LIFE WEARだ。
動くたびに増えるシワも、
洗うたびに落ちていく色合いも、
自分の身体に馴染んでいくようで愛おしい。

だから、
ジーパンは、服というよりも相棒だ。
ジーパンは、己の生き様が刻まれる。
なんてちょっとキザな言葉が
生まれてきたのも納得できる。

いいジーパンを穿こう。
見えないところも手を抜かず、
丁寧につくられたジーパンを。
うんと長く付き合っていこう。
それはいつか、他の誰にも似合わない
君だけの一本になるはずだから。



名前	Bruce（愛称：ブルーくん）
年齢	1歳
出身	東北地方
趣味	工程分析
性格	人懐っこい
長所	丈夫で長持ち
短所	話が長い
夢	ベストジーニスト賞

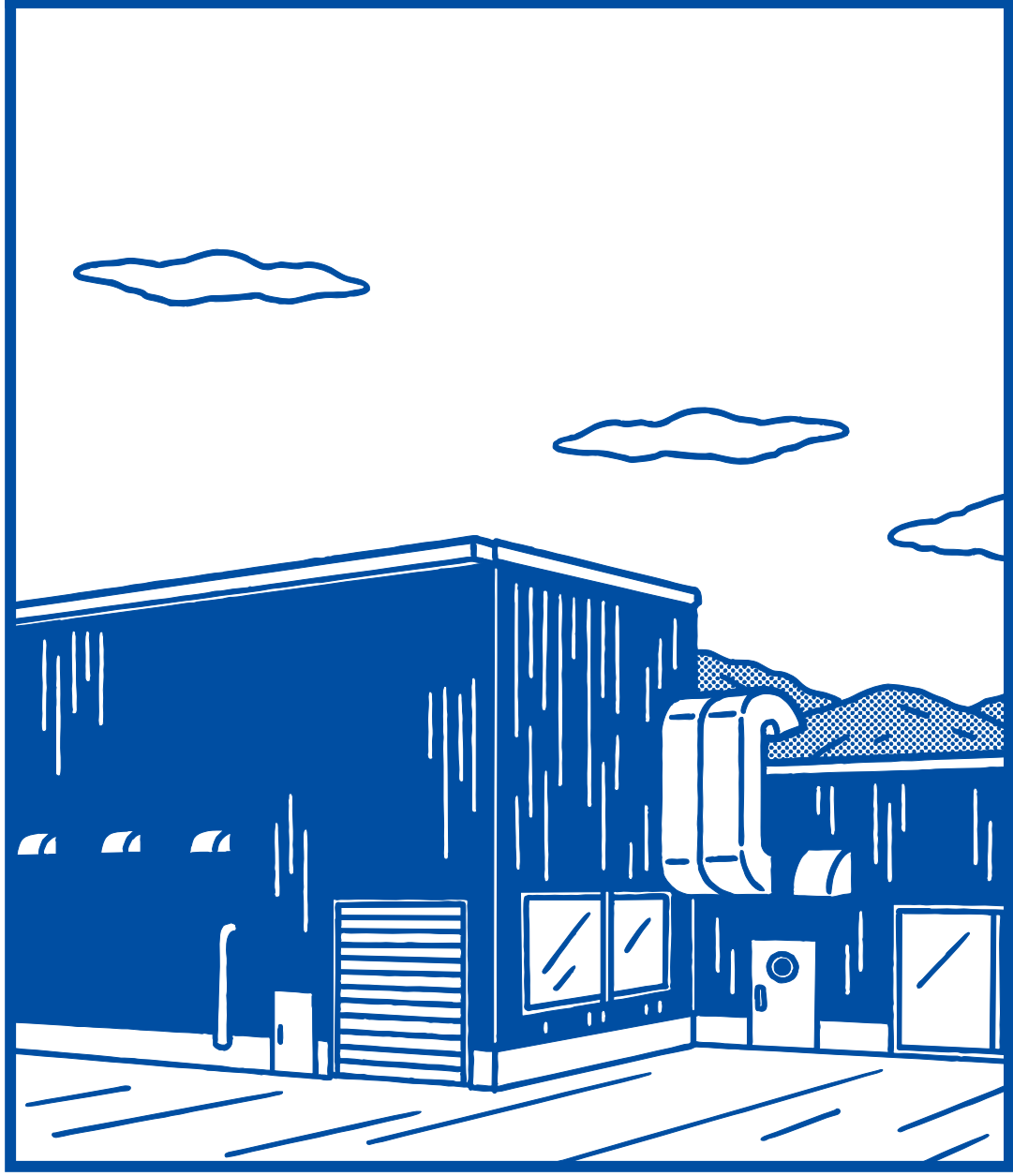


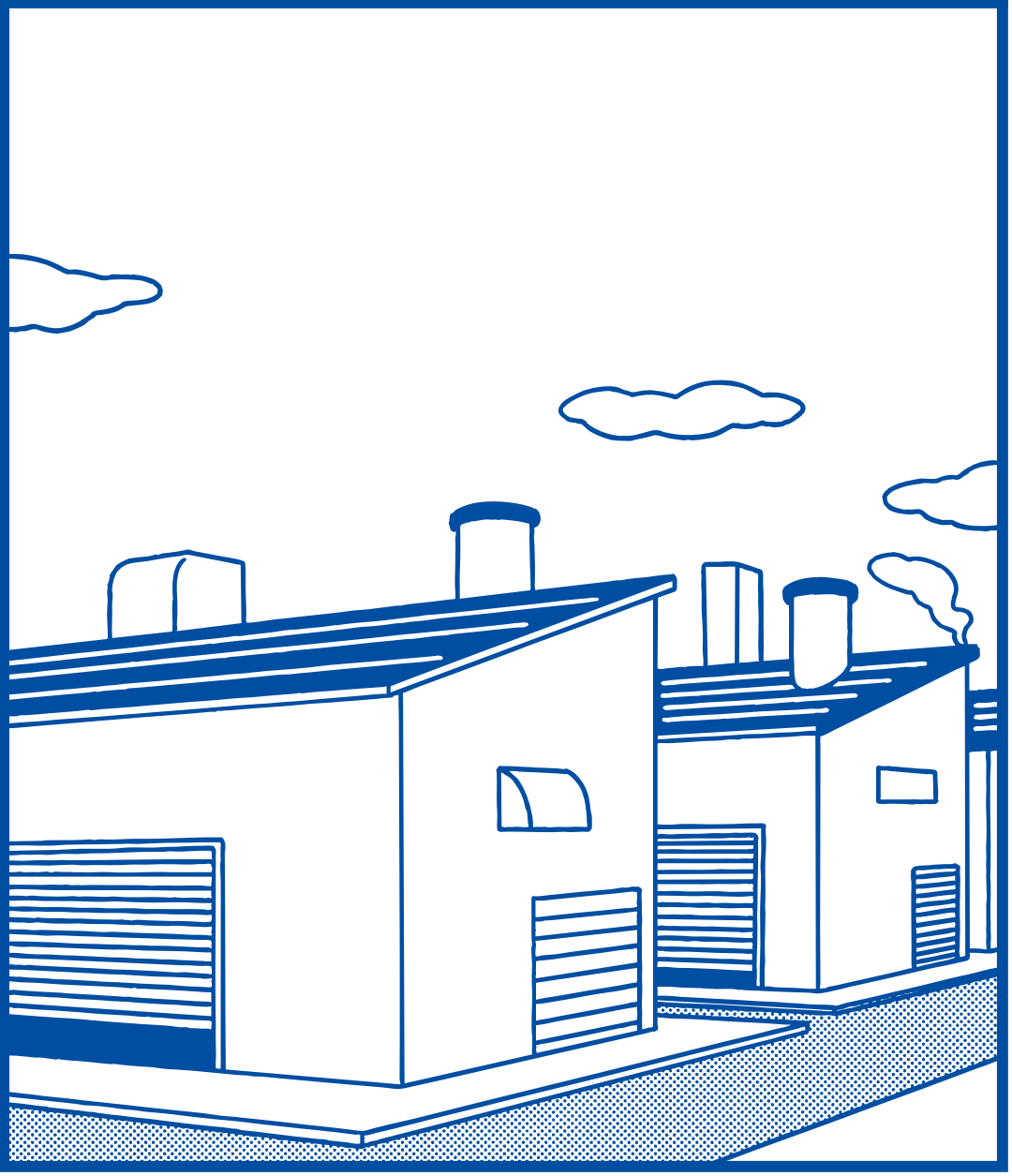
Difference

別に覚えてくれなくてもいいけれどいちど聞いてほしいことがある

Q1　ファクトリー

どっちがエドウイン？

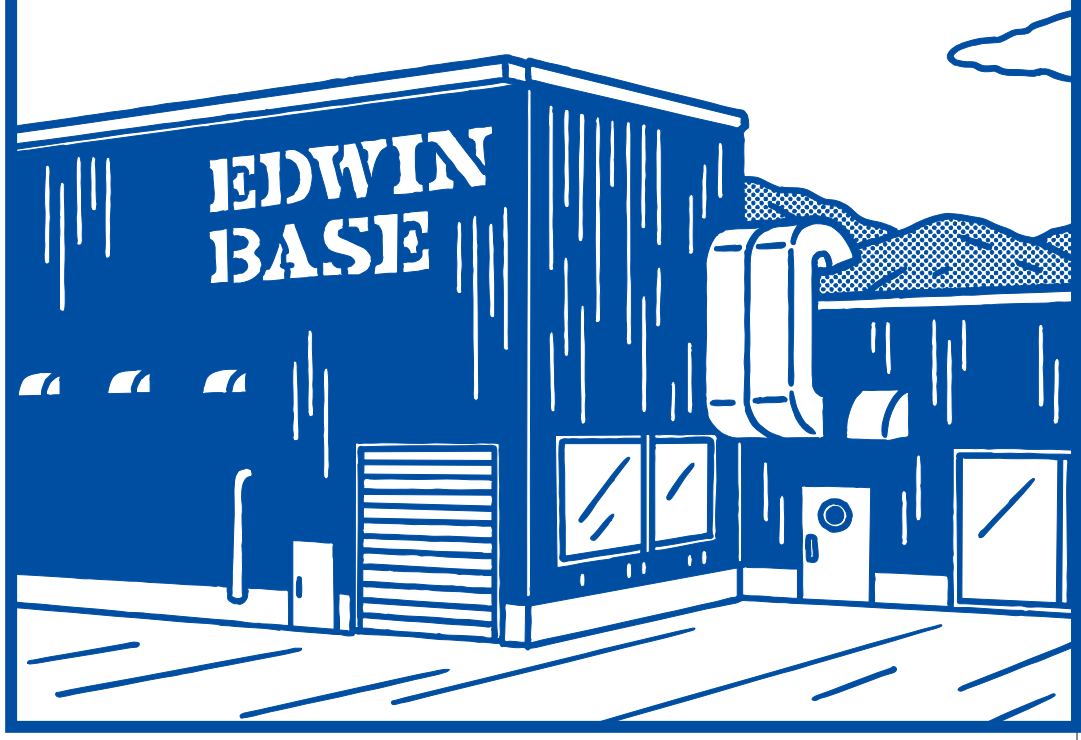




エドウイン

エドウインは、国内自社工場にこだわる。

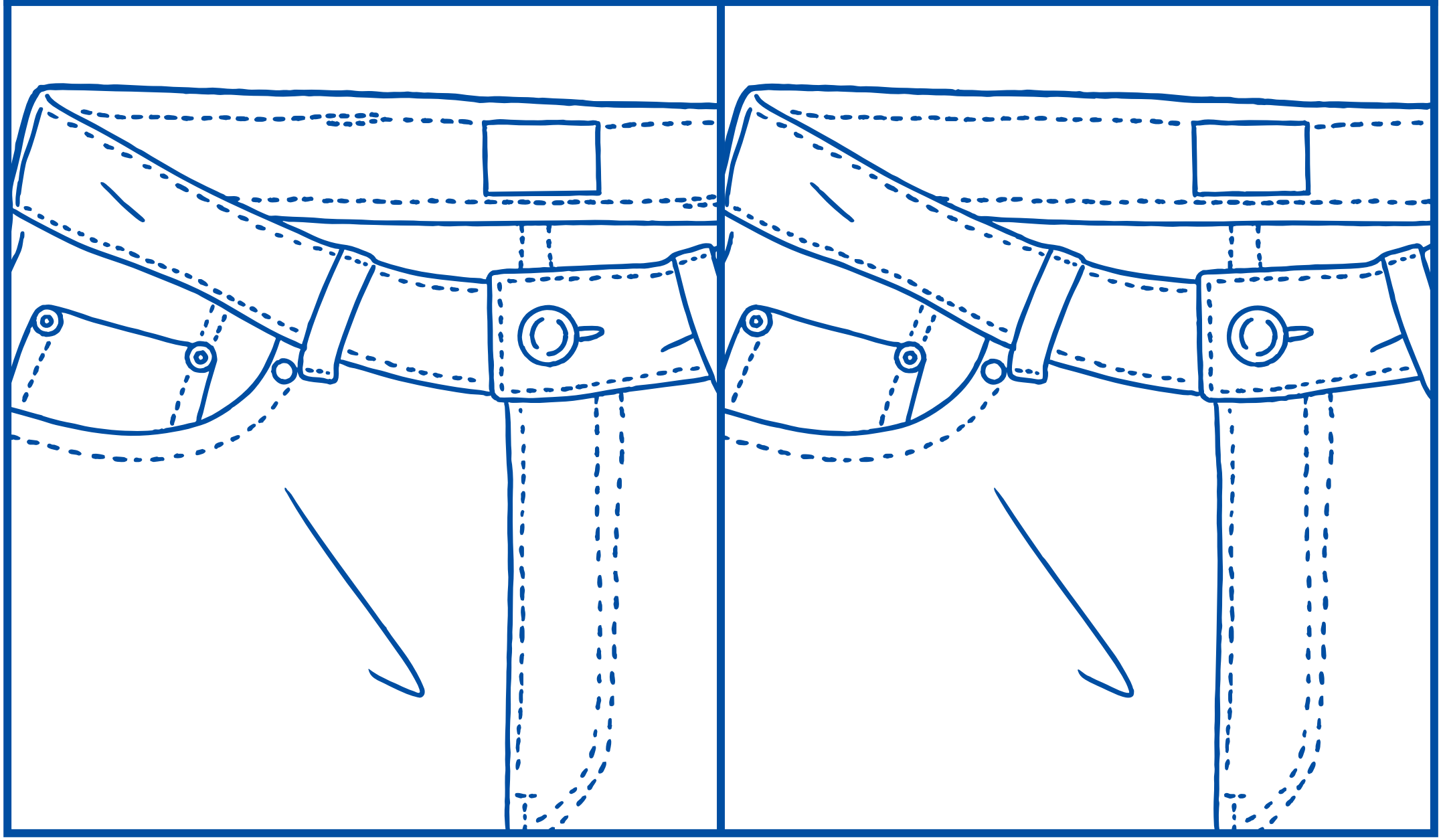
メイドインジャパンにこだわるエドウインのものづくりは国内自社工場で行っています。その第一号は、1973年に秋田県五城目町に秋田ホーセ五城目工場を設けたところから始まりました。そこから一貫して東北の地でものづくりを続けており、現在は4つの縫製工場と1つの洗い加工工場を展開するに至っています。自社工場の良さはいくつかありますが、設備開発に積極的に取り組めることや、オーバースペックとも言える厳格な品質管理と高い生産性を両立できること、そして、製品の開発や改良を迅速に行えることなどが挙げられます。



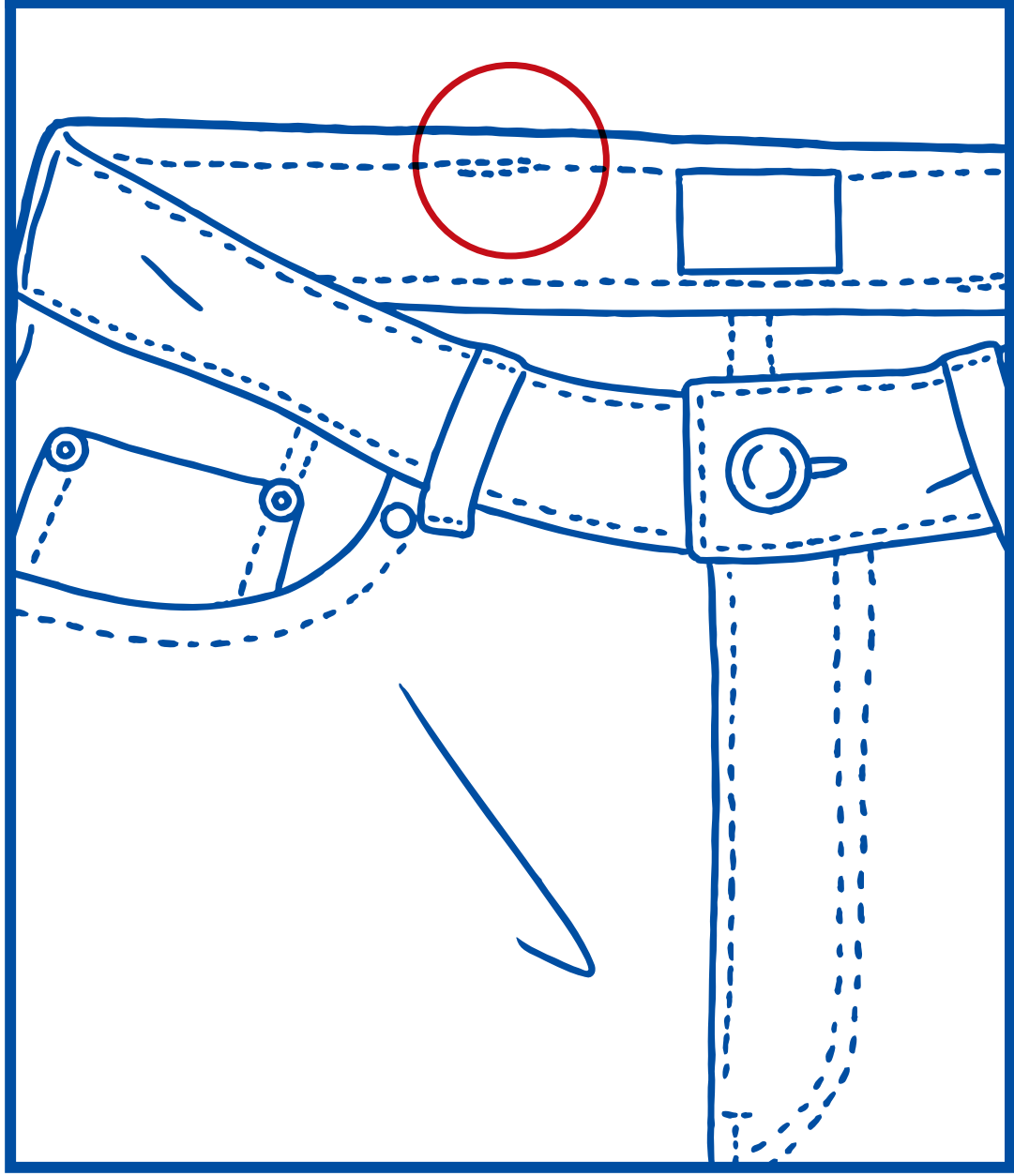
エドウインじゃない

Q2　ソーイング

どっちがエドウイン?



エドウインじゃない



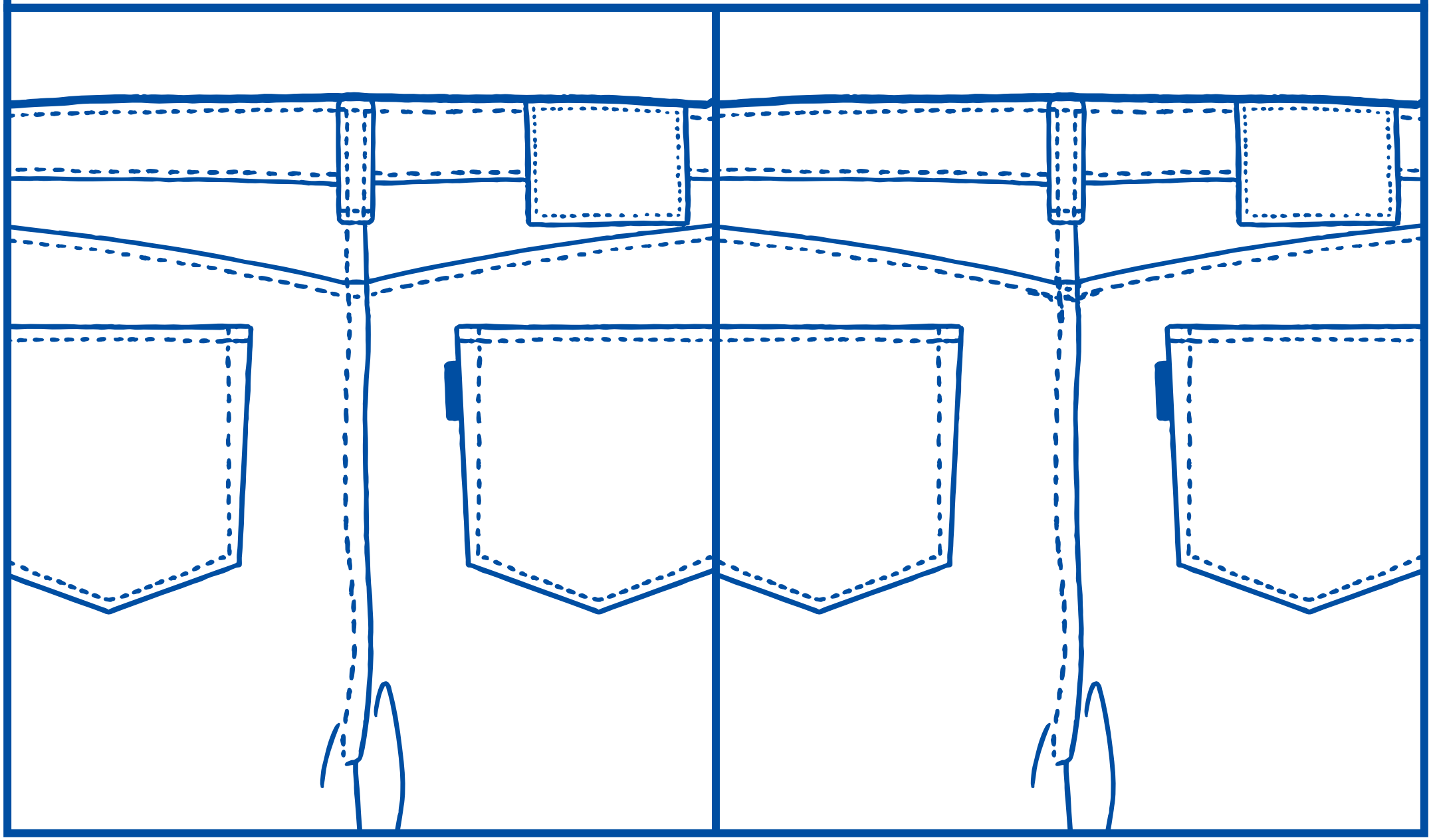
エドウイン

エドウインは、ミスを誤魔化さない。

ジーンズの縫い方のひとつである「本縫い」は上糸と下糸とで構成されており、その下糸を供給するボビンが目視できないことから、縫っている途中で下糸だけ無くなることがあります。一部のメーカーでは下糸がなくなり、縫い止まった縫い目の少し前から重ねて縫い始める「縫いつなぎ」を行うことがあるようです。この「縫いつなぎ」は見た目が美しくないだけならまだしも、丈夫さという点でも問題があります。エドウインではそもそもこうしたミスが発生しないよう下糸の残量が目視でき、自動的に交換までできる特殊なミシンを使っていますが、万が一、途中で下糸が無くなったとしてもそこまで縫った糸を解いて初めからやり直します。

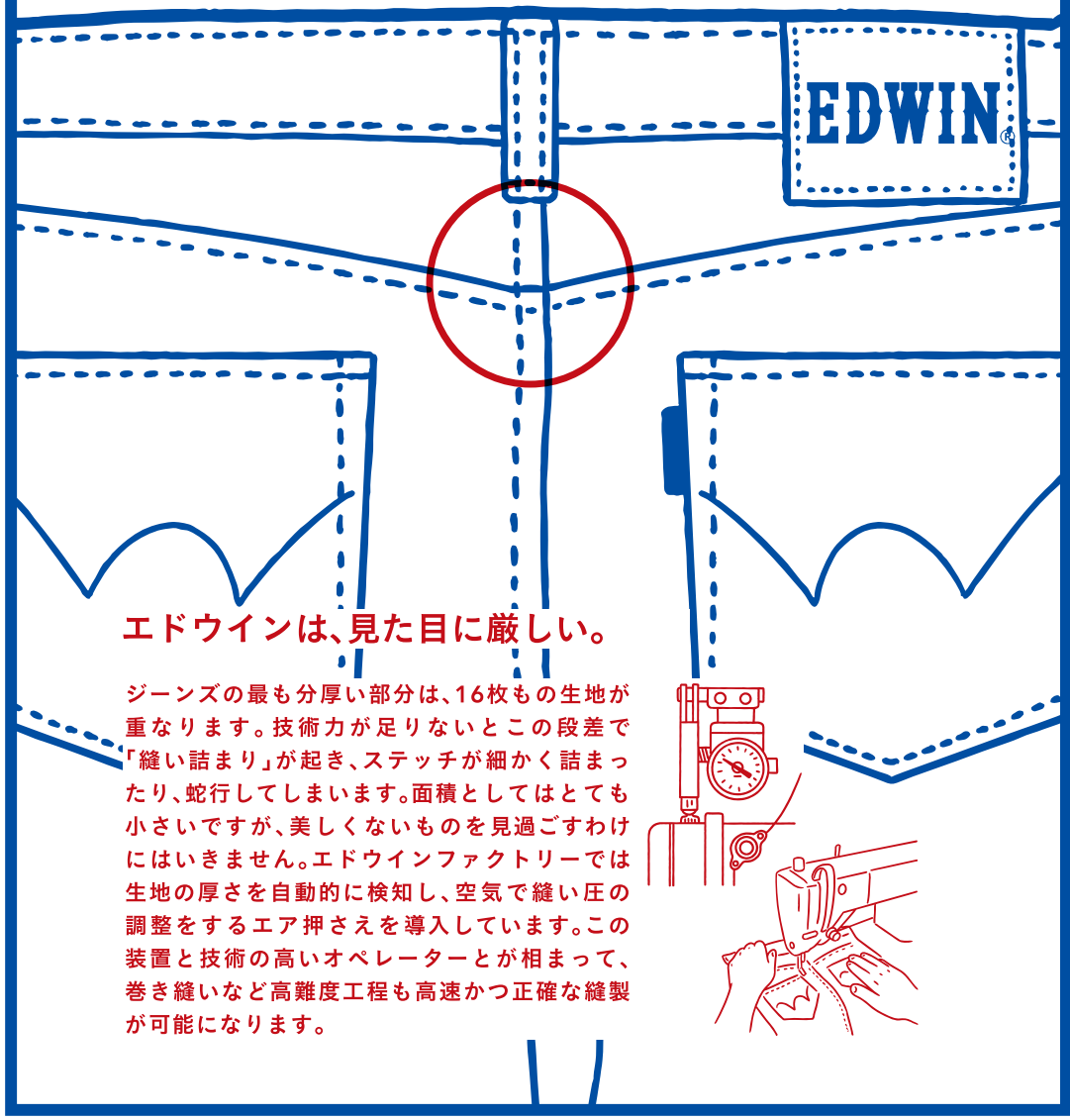
Q3　ステッチ

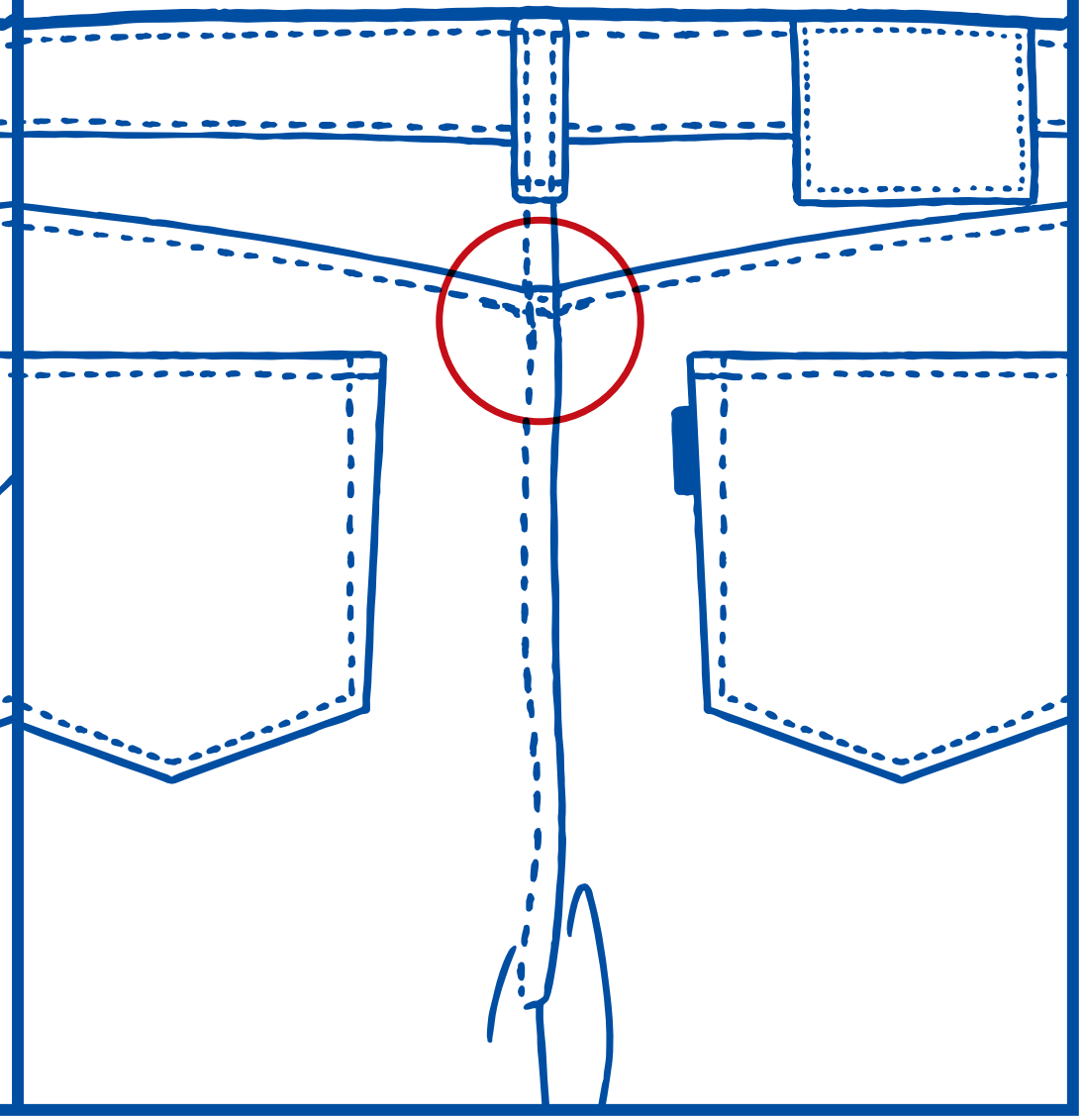
どっちがエドウイン？



エドウイン

エドウインじゃない



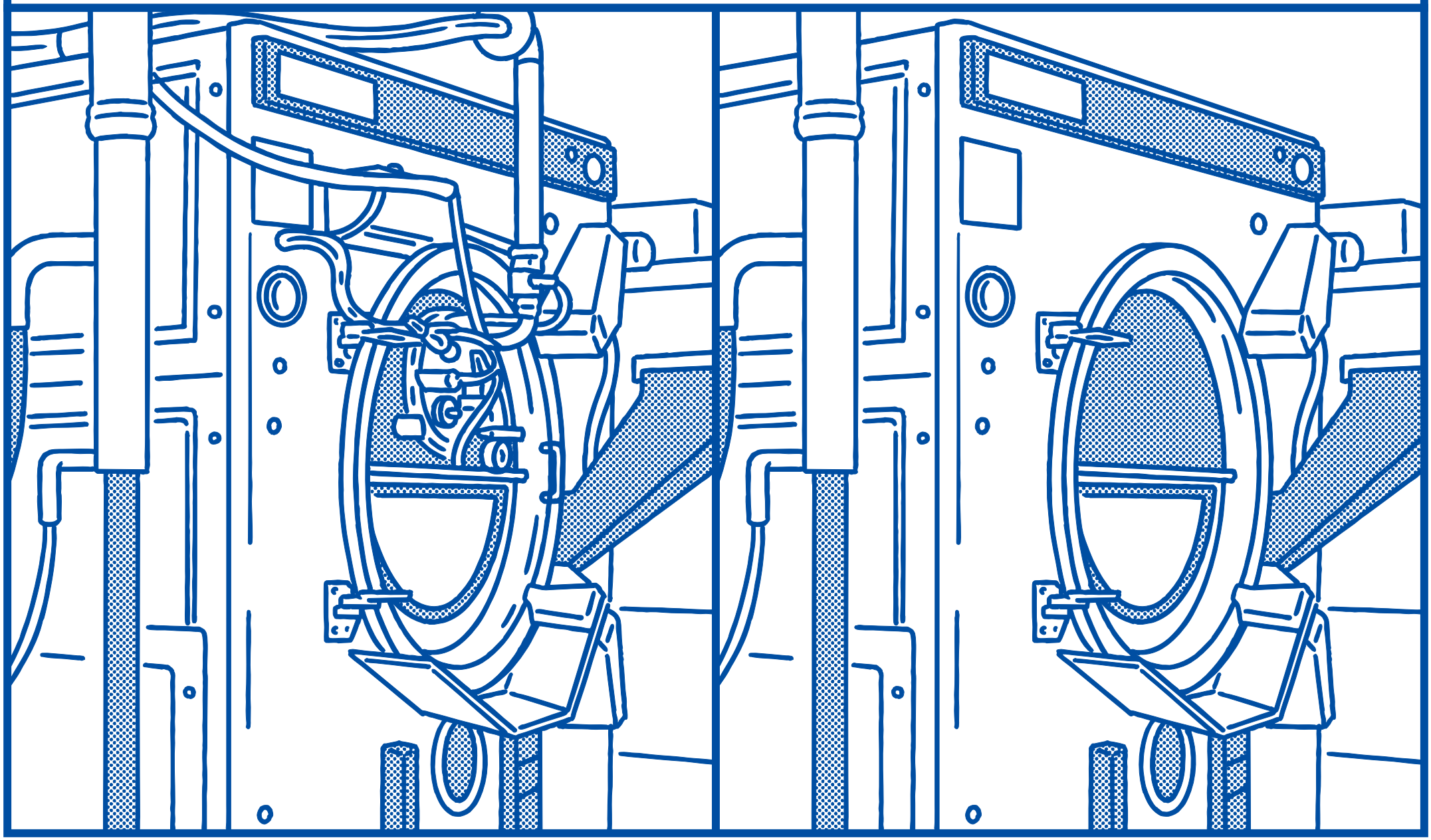


エドウインは、見た目に厳しい。

ジーンズの最も分厚い部分は、16枚もの生地が重なります。技術力が足りないとこの段差で「縫い詰まり」が起き、ステッチが細かく詰まったり、蛇行してしまいます。面積としてはとても小さいですが、美しくないものを見過ごすわけにはいきません。エドウインファクトリーでは生地の厚さを自動的に検知し、空気で縫い圧の調整をするエア押さえを導入しています。この装置と技術の高いオペレーターとが相まって、巻き縫いなど高難度工程も高速かつ正確な縫製が可能になります。

Q4　ウォッシング

どっちがエドウイン?

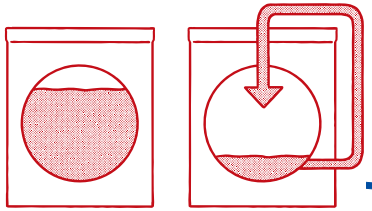


エドウイン

エドウインじゃない

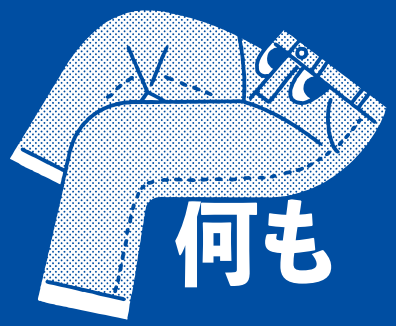
エドウインは、環境問題にうるさい。

ものづくりをする者の責任として環境問題に関しては自ら厳しく律してきました。例えばジーンズの製造工程のひとつである「ウォッシュ加工」ではオゾンによる脱色と洗う水を循環させるジェット・ウォッシュの組み合わせによって、従来の洗い方と比較して理論上99.6%の水の使用量を削減する特許技術※を取得しています。具体的にどのくらい削減できるかというと、これまでジーンズ1本あたり300リットル（最大値）の水を使用していたものが、たった1.2リットルになるのです。ものづくりをする会社として環境を配慮したサスティナブルな取り組みも力を入れていきます。



※特開2021-147736

Quality

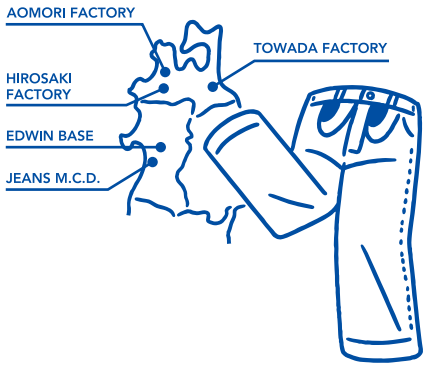


何も
そんな
細かい
ところまで
こだわらなくても

Quality 1

MADE IN JAPAN,
MADE IN JIMOTO.

東北がボクの
ふるさと！

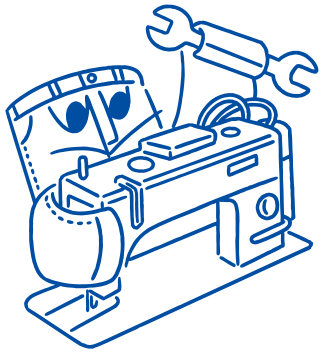


エドウインファクトリーのスローガンは
「東北から世界へ」。
青森と秋田を拠点に
ものづくりをしているんだ。
ものづくりの会社にとっては
地域貢献も重要なミッションだから、
従業員はみんな地元で採用しているよ。
まさにMADE IN JAPANであり、
MADE IN JIMOTOだよね！

Quality 2

エンジニアチーム

あの知識と技術には
頭が上がらないよ

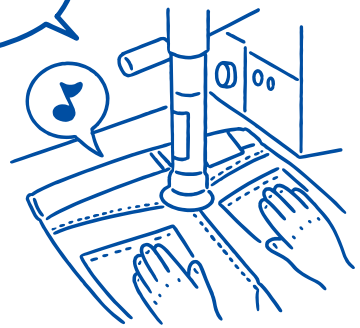


エドウインファクトリーにはミシンの専門家がいるよ！
メンテナンスはもちろん、どんなトラブルシューティングだって朝飯前さ。
あんな装置を開発できたら便利になるな、こんなミシンの使い方ができたら
品質や生産性を上げることができるな、といった具合に、
いつも現場のみんなと会話をしながらアイデアを出している
クリエイティブな人たちなんだ。

Quality 3

尻巻き縫い

僕のお尻も
美しいでしょ？

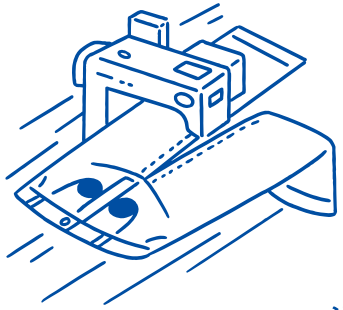


縫製だけで44工程（5ポケットジーンズ）もある
ジーンズづくりの中で、最難関とされるのが
「尻巻き縫い」なんだ。
みんな簡単にやっているように見えるけど、
お尻の曲線に合わせて縫い合わせるこの工程は
熟練の技術がなければ美しく仕上げられないんだ。
エドウインファクトリーではUnion Special 35800巻き縫いミシン
という専用のマシンを使いこなして仕上げる様子が見られるよ！

Quality 4

内股ステッチ

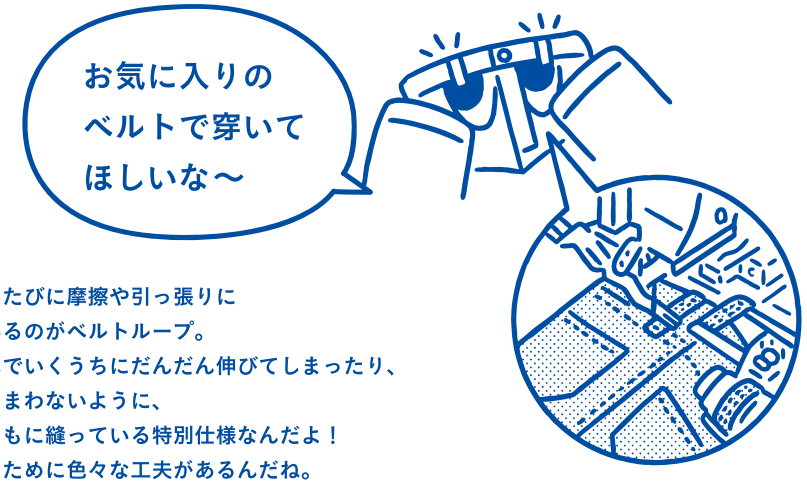
ビューン！と
高速で
縫ってます



ジーンズの中でいちばん縫う距離が長いのが内股。
ステッチの正確性が出ちゃうんだよね…。
でも大丈夫！熟練の技術を持つオペレーターさんが
縫い圧（どのくらい強く針を刺して縫うか）を
自動調整できる最新鋭のミシンを使いこなして、
安定した品質を保ってくれているよ！

Quality 5

ベルトループ



実は穿くたびに摩擦や引っ張りに
耐えているのがベルトループ。
穿きこんでいくうちにだんだん伸びてしまったり、
ヨレてしまわないように、
芯地とともに縫っている特別仕様なんだよ！
長く穿くために色々な工夫があるんだね。

Quality 6

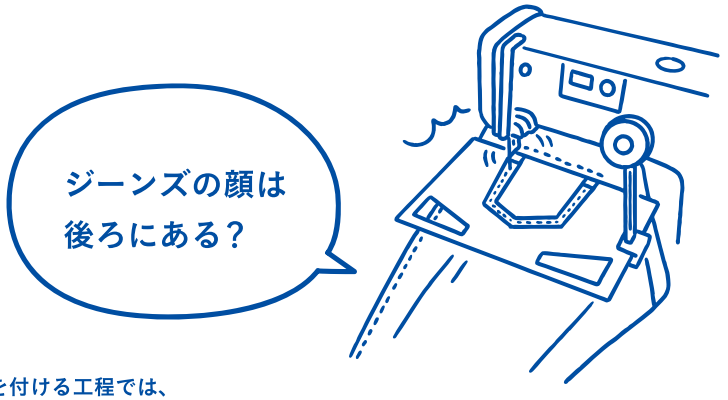
環縫い（チェーンステッチ）

これも独自の
工夫なんだね！

エドウインの環縫いは、
バルーン状にステッチを膨らませているんだ。
そうすることで縫い目に弾力が出るから、
石でゴロゴロ洗っていい感じのアタリをつける
ストーンウォッシュにも強く、
穿きこんでも切れたりしない丈夫さが生まれるよ！

Quality 7

自動ミシン



ポケットやラベルを付ける工程では、
品質の安定と作業の効率を両立させるために自動ミシンを使っているよ。
特にジーンズの後ろポケットは “品質の顔” で、その出来栄えは商品の価値を左右するんだ。
だからこの自動ミシンはエドウインファクトリーが
求める品質を守るためにカスタマイズされているよ。

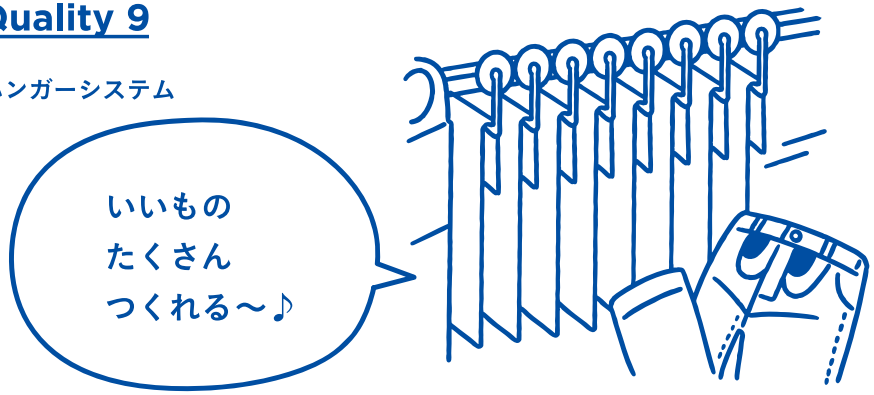
Quality 8

スタッカー

作業効率を安定させて良いものを
手際よくつくるために、
ロボットまで開発しちゃうのがエドウイン。
スタッカーというそのロボットは、
オペレーターさんが作業に集中できるように
自動でジーンズのパーツを
畳んだり運んだりしてくれるみたいだよ！

Quality 9

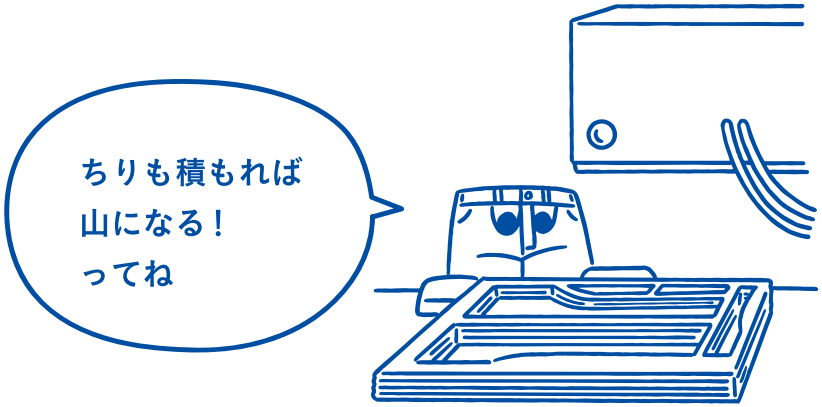
ハンガーシステム



工程Aを担当するオペレーターさんの作業が終わると、
次の工程Bでパーツを待っているオペレーターさんのところまで
自動で搬送してくれるのがハンガーシステム。
取ったり置いたり運んだりいろんな作業を削減することで、
高い生産性と業務負荷の低減と平準化が図れるね！

Quality 10

裁断



デニム生地のロスが出ないよう、みっちり、きっちり、
型入れしたデータ通りに自動裁断機が裁断をしてくれるんだ！
それでも出てしまう裁断片は反毛（はんもう）工場に送るんだって。
すると裁断片はエドウインのリサイクルプログラム「CO:REプロジェクト」で
再び綿に戻って活用されるよ。

Quality 11

レーザーとオゾン

買った時から穿きやすい自然な使用感やダメージって、
どうやってつくるか知ってる？
レーザーの熱でインディゴ染料を昇華させて
アタリをつけたり、空気からオゾンを発生させて
その酸化作用で脱色したりするんだよ。
どちらも水や化学薬品の使用を抑えられてすっごくエコなんだ！

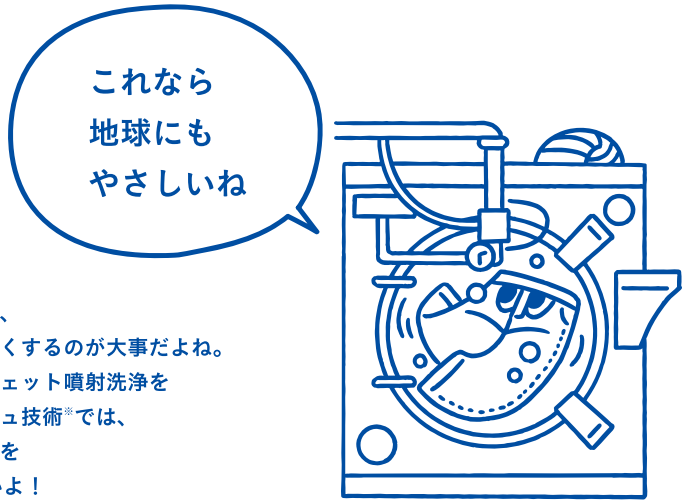
Quality 12

排水処理

“1日500トン以上” なんかすごい数字だよね〜。
エドウインファクトリーで加工に使った水を浄化をする量なんだって！
行政の基準よりも厳しい自主管理のおかげで、
河川へ流すときには魚も飼えるくらいキレイになってるよ。
ちなみにインディゴの色素なんかは凝固させてセメントなどの材料にリサイクルしてるんだ。

Quality 13

水の節約



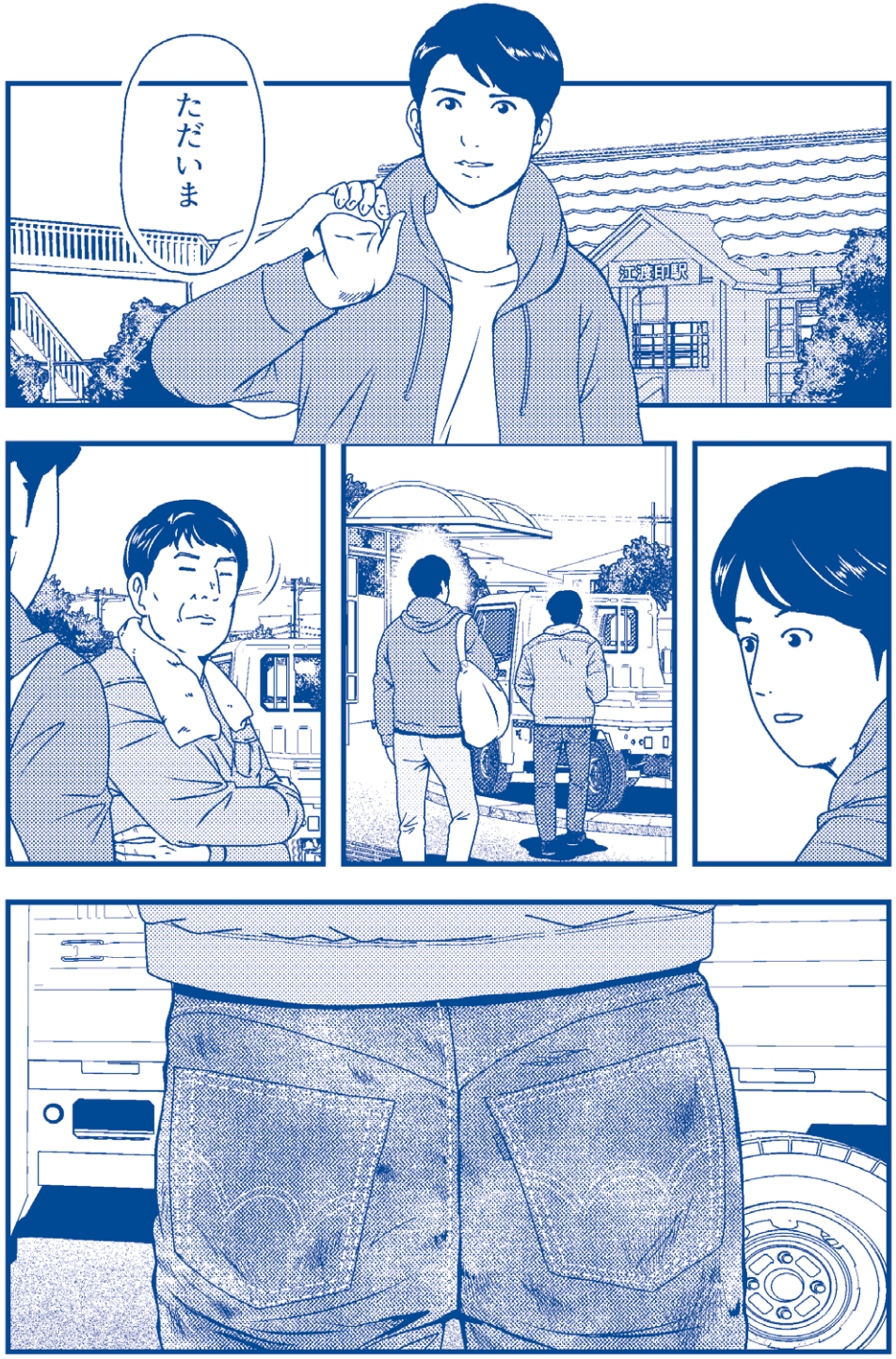
地球環境を考えるなら、
そもそも使う量を少なくするのが大事だよね。
オゾン洗浄と循環型ジェット噴射洗浄を
組み合わせたウォッシュ技術※では、
従来よりも使う水の量を
95%も減らしたらしいよ！

※特開 2021-147736

Quality 14

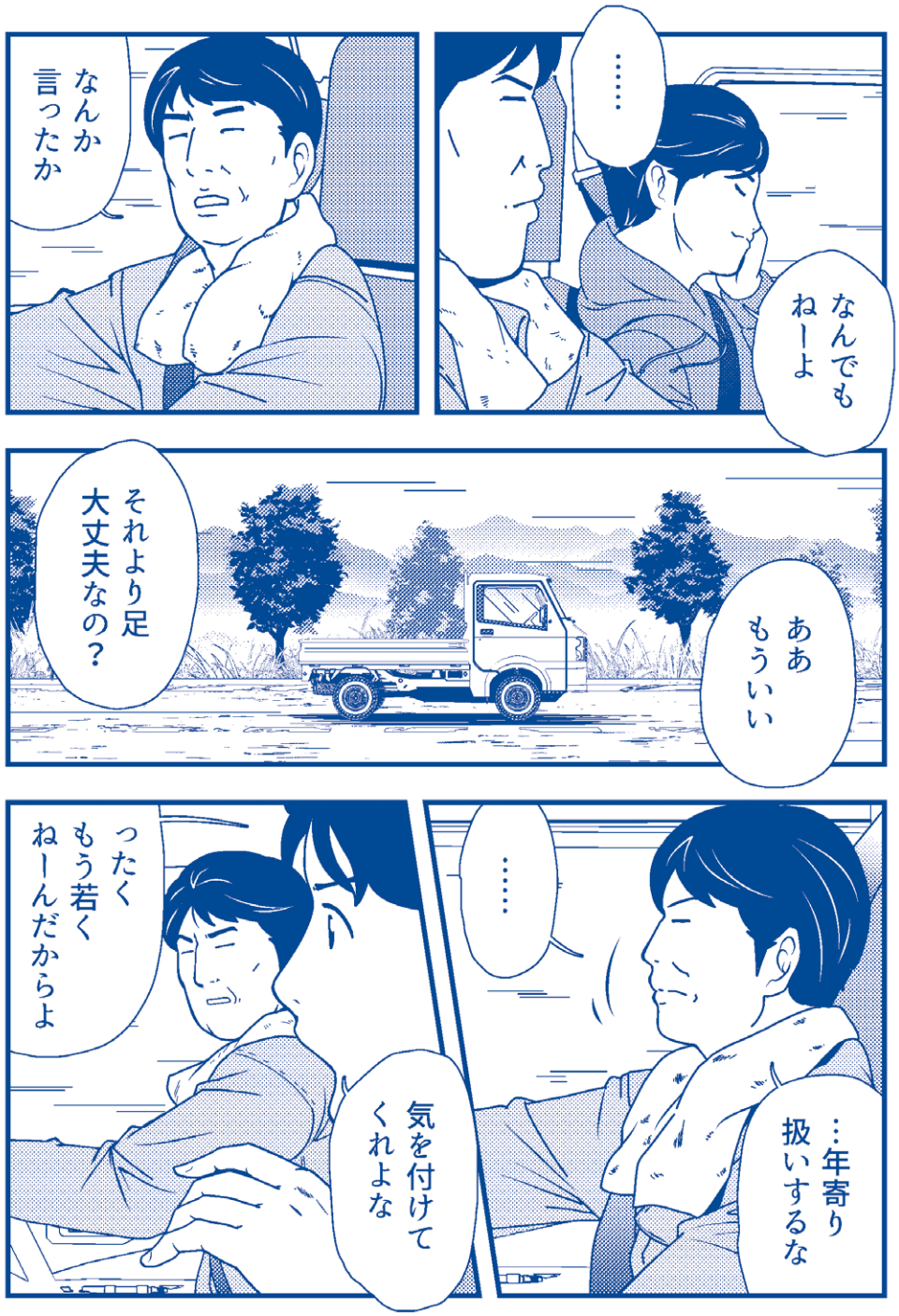
責任あるものづくり

難しい言葉がつづくけど、大事なことだから聞いてね。
エドウインは法令遵守や社会責任、安全衛生、
そして環境へのガイドラインに従って、第三者機関による監査を実施してるよ。
使用禁止薬剤の管理はEU規則など国際規則に敏速に対応できるよう、
毎年アップデートもしてるんだ。
見えないところの頑張りも、ちょっとだけ褒めてほしいな。

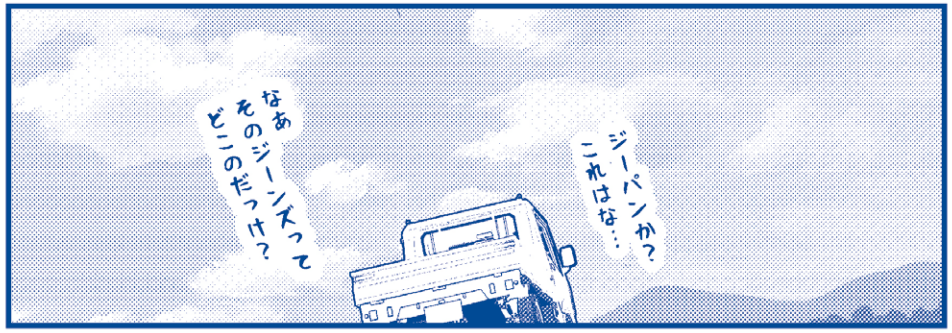

ただいま
江波駅

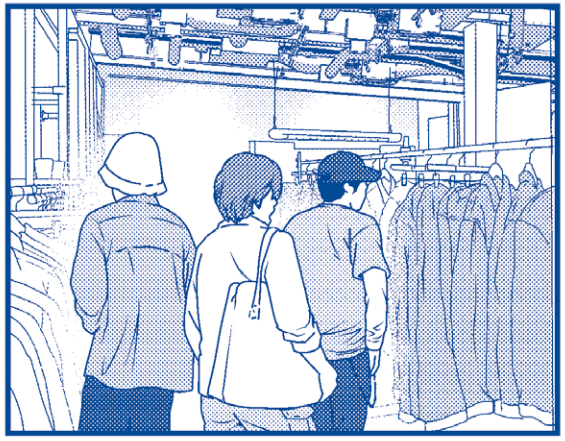
混んでたか
電車
いや…

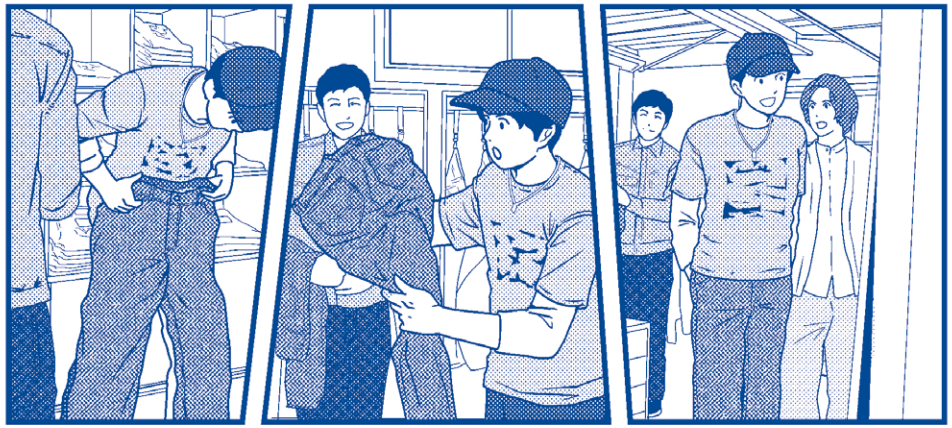
ったく…
新しいの買えよ

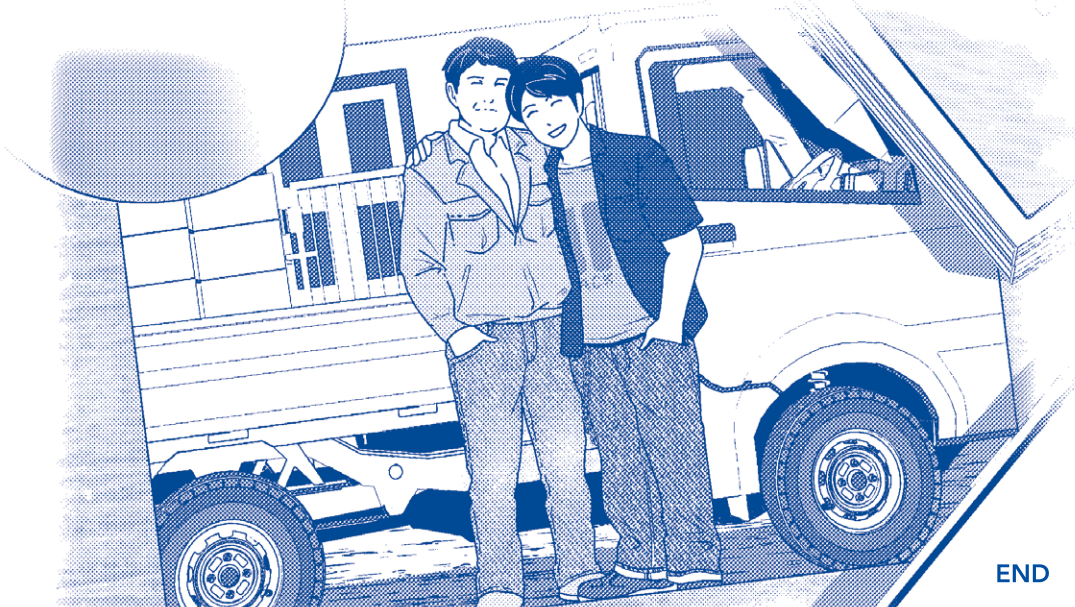

なんでもねーよ
……
なんか言ったか
ああもういい
それより足大丈夫なの？
…年寄り扱いするな
……
気を付けてくれよな
ったくもう若くねーんだからよ

俺は
まだまだ現役だ



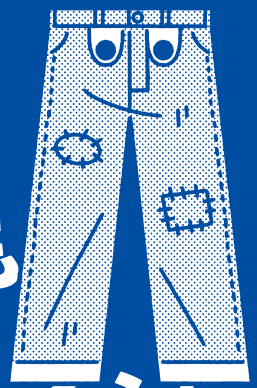






END

Maintenance



いつか誰にも
渡したくないくらい
大切なものになる

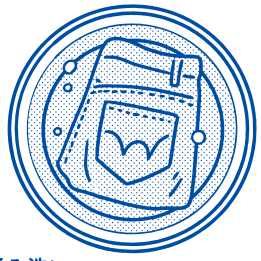
なるべく洗わないほうがいい！という考え方もあるけれど。
普通の服と同じように汗や皮脂で劣化するので、
定期的に洗って長く楽しもう。

糊がついた新品の生デニム（RIGID）の場合

そのまま穿く派の人もいるが、エドウインでは糊を落として、
デニムを通常の状態に戻してから穿くことをおすすめしている。
少し手間がかかるが、この手間こそが愛着の種。
ここでは洗い方で2つ、乾かし方で2つ紹介するが、
それぞれにメリット・デメリットがあるので君の好みで決めてほしい。

洗う

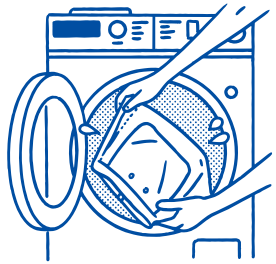
洗い方 A



「たらいでつけ置き洗い」

①ジッパーを閉める/ボタンを留める
②裏返して3つに折りたたむ
③ぬるま湯につけて1~2時間放置したらやさしく揉み洗い
④水が黄色くなったら糊が落ちている証拠

洗い方 B



「いきなり洗濯機」

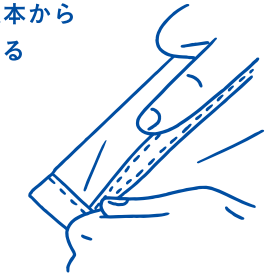
①ジッパーを閉める/ボタンを留める
②裏返して洗濯槽（ドラム）に沿うように入れる
③おしゃれ着コースなどやさしい洗い方で脱水までかける

乾かす

不自然なアタリや色落ちを防ぐため、
乾かす前にやっておこう！

> 生地のシワやよじれをしっかり伸ばす
（ポケットの内袋「スレーキ」のシワも忘れずに）

> セルビッジ（耳）は根本から
開いてぎゅっと抑える



乾かし方 A

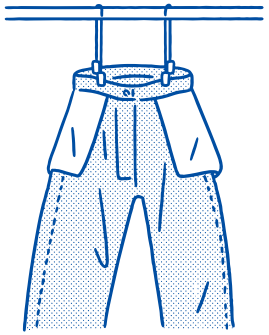
「乾燥機」

①裏返したままドラムの形に沿うように入れる
②デニム素材は高温で縮む恐れがあるので、
乾燥する時間は自然乾燥の補助として短時間に

乾かし方 B

「自然乾燥」

①裏返したままウエストを上に
②筒状にピンチで留める
③直射日光を避け陰干しする



普通のデニムの場合

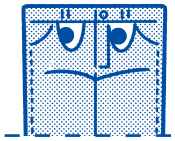
1963年にエドウインが発表したONE-WASHのように、あらかじめ糊を
落とした状態で売っているもの。生デニムの2回目以降もこの洗い方で大丈夫。

STEP 1 ボタン / ファスナーを閉めて、裏返す

STEP 2 漂白剤や蛍光剤の入っていない洗剤で洗う

STEP 3 裏返したまま筒状にピンチで留めて陰干し

Repeat WASH & WEAR!!



> 洗濯の頻度について

変色するリスクがあるので、汗をかく夏場はこまめに。
普段は自分の感覚で汚れたなと思ったときに。
頻度を上げれば全体的に均一な色落ちになり、
頻度を下げればヒゲやハチノスなどのアタリがはっきり出る。

> ある社員の話

昔は先輩の話を聞いたり、雑誌を読んだりして、昔は先輩のやり方を真似してみたり
雑誌で紹介していた方法を試してみたりいろいろやったけど、
途中で面倒くさくなっちゃって（笑）
しばらく適当に穿いて、汚れたなーって思ったら洗濯機で洗う。みたいなことを
していたら、いつの間にかいい感じのアタリが出ていたなんてこともありますね。

> 裏ワザ

自分の身体に馴染ませたり育てたりすることは魅力的だけど…。
待ってられない！という場合は、
エドウインの得意な中古加工のジーンズを穿くというのもアリ。

洗い方ひとつとっても“基本はあるけど正解はない”その自由さがジーパンのいいところ。ガンガン穿いて、どんどん身体に馴染ませていこう。

長く穿いたジーパン　は誰ともかぶらない

CASE　1

モデル　EDS

着用　1年半

特徴

裾上げの対応時に左膝をつくため、そこだけ強く色落ちしている。

CASE　2

モデル　EDS

着用　2年

特徴

洗う頻度を少なくしたため、メリハリのある色落ちに。
ウォレットチェーンの汚れが右ポケット部分に見られる。

CASE　3

モデル　EDS

着用　2年半

特徴

適度に洗っていたため全体的に色落ちしている。右ポケットにできたスマートフォンの跡や、コインポケットにできた「日の丸ウォッシュ※1」が唯一無二の雰囲気に。

CASE　4

モデル　EDS生機（キバタ）※2

着用　2年

特徴

ヴィンテージデニムの生地を再現しているため、粗野で荒々しい色落ち。

※1　日の丸ウォッシュとは…EDSシリーズには「日の丸レザータグ」が付属しており、
それををコインポケットに入れて穿きこむことで「日の丸ウォッシュ」が現れる。この色落ちこそがEDSシリーズの証とも言える。

※2　生機デニムとは…通常のデニムは織り上げた後、均一な品質を保つために防縮加工（サンフォライズド）やねじれ防止（スキュー）、毛焼きといった仕上げの整理加工を施す。
「生機（キバタ）デニム」とは、この整理加工を行わない織り上がったそのままの状態の生地。整理加工を施した生地の方が、製品としては穿きやすく、扱いやすいものになるが、
敢えて整理加工を行わない「生機（キバタ）デニム」は、生地に凹凸やゆがみが生じ、穿き込むことでヴィンテージデニムならではの色落ちが楽しめる。

メイドインジャパンへのこだわりとして自社工場を持つことは、

その地域への貢献に努めるとともに、従業員を雇用する責任と、

製品の品質に対する強い責任を伴います。

ジーンズは長い期間 “相棒” として寄り添う存在であるとエドウインは考えています。

つまり細部まで手を抜かない品質へのこだわりが重要です。

工場では設備開発や日々のカイゼンが欠かせません。

同時に価値ある価格で提供することを可能にする生産性の高さも重要となります。

様々なこだわりを持ったエドウインのジーンズ

(ここでは愛着を持ってジーパンと呼びましょうか)。

そのこだわりをもっとみなさんに知っていただきたいという想いからこの冊子をつくりました。

この一冊を通してエドウインの哲学、そして、

製品に込められた想いの一端を感じていただけたら幸いです。

最後に。

エドウインを選んでいただいたお客様に心から感謝申し上げます。

これからも変わらぬご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

いいジーパン穿こうぜ。

MADE BY EDWIN

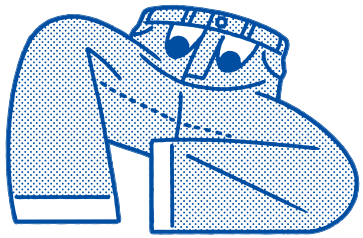
エドウイン 社員一同

JEANS QUALITY BOOK

2025年3月31日初版発行

著者　エドウイン・クリエイティブチーム
協力　秋田ホーセ(株)、(株)みちのくジーンズ、(株)ジーンズM.C.D.
発行所　株式会社エドウイン
〒141-8255 東京都品川区上大崎2-24-9
アイケイビルディング2F
0120-008-503
https://edwin.co.jp/
印刷・製本　藤原印刷(株)

企画・デザイン　POOL inc.
イラスト　YUNOSUKE
漫画　重松 延寿(enju)



ずっと気づいてほしかった。

EDWIN®